

第二章 原史料

第二章 原史料

第一節 Babad Tanah Jawi

〈35〉 マジャパヒトに関する Babad Tanah Jawi の解説は Serat Kanda での解説とほとんど同じようにみえる。Babad Tanah Jawi と Serat Kanda に盛り込まれているマジャパヒト王国の建国に関して、歴史的な角度から見るとその差は無視できるほどである。諸王と宰相たちの組織については前に触れたとおりである。Babad Tanah Jawi と Serat Kanda で解説されているようなイスラム化とマジャパヒトの崩壊は十分に注目を引く必要がある。上記の Babad Tanah Jawi と Serat Kanda に述べられている記事がどこまで真実であるかを知りたいものである。その内容を知るために、ここで要約を述べる必要がある。その話は Brawijaya II 世が自称していた Raden Alit から始まる。Brawijaya II 世には Gajah Mada という名の宰相がいた。

Raden Alit 別名 Brawijaya II 世はチャンパの王女と結婚する夢を抱いていた。このチャンパの姫は Dwarawati という名であった。王は Gajah Mada を結婚申し込みのためにチャンパに遣わした。この申し込みは受け入れられた。チャンパの姫の長女をマジャパヒトに嫁入りさせるために Gajah Mada に託した。Brawijaya 王は Gresik の港でチャンパ姫を出迎えた。続いてチャンパ姫と Brawijaya 王の結婚式が執り行われた。

〈36〉

その時、森の中で巨人の男女が修行をしていた。巨人女はマジャパヒト王と結婚したがっていた。巨人男がこれをあきらめるようにと十分に忠告したにもかかわらず、巨人女はマジャパヒトに行くことを決心したのであった。巨人女は Ni Endang Sasmitapura という名前の美しい女性に化けた。マジャパヒトの市場に着いて、Ni Endang Sasmitapura はたくさんの人に囲まれた。彼らはその美しさに驚いたのだった。Gajah Mada 宰相はそれを聞いて市場に出かけた。Ni Endang Sasmitapura を見てすぐ王に捧げるために彼女を王宮に連れて行った。Ni Endang は王の妻となった。食事をするとき Ni Endang は刻んだ生肉を所望した。この欲求は堪えることができなかった。ついに刻んだ生肉を提供されそれを食べたのだった。直ちに彼女の様相は

変わり巨人女の形に戻った。それ故王宮の人たちは驚いたのだった。Ni Endang を殺すように命が下ったが、彼女は難を逃れることができた。九か月後に赤ん坊が生まれ Jaka Dilah と名付けられた。Jaka Dilah が成人してから本当の父親は誰であるかを育ての父に尋ねた。お前の父親はマジャパヒト王の Brawijaya 王であるとその巨人男は告げたのだった。王に仕えようとして Jaka Dilah はマジャパヒトに向かった。王宮前広場まで来て王に請願した。その後王に謁見するために王宮に呼ばれた。名前や出身地とその目的についての質疑応答のち Jaka Dilah は王宮で王に仕えることを認められたのだった。とある日、王は密林で狩りをしたいと思った。Jaka Dilah は王に向かって「狩りのために遠い密林まで行く必要はありません。王宮前広場でシカや水牛狩りしながら獲物を捕まえる方が良い。私がこれらの野生動物たちを王宮前広場に集めましょう」と言った。この言葉を聞いて王は驚いた。Jaka Dilah は王宮前広場に野生動物を集めるように命を受けた。もしうまくいかなければ首をはねられたのであった。Jaka Dilah は巨人女の住む森に向かった。彼は母親に、野生動物を集めて、マジャパヒトの王宮前広場に護送するように依頼した。巨人女はその息子の依頼を承知した。〈37〉野生動物は集められて王宮前広場にじょうずに護送された。王は狩りを喜び Jaka Dilah の能力に驚いたのであった。感謝と高評価の証拠に、Ki Jaka は大臣に昇格し Arya Damar という名を与えられた。Jaka Dilah 別名 Arya Damar は Gresik 港を経由して Palembang の属国王に昇進した。かれは Gresik 港にやや長期間滞在し東風が来るのを待ったのであった。

お告げがあったようにチャンパ妃が懐妊するための条件として、華人の姫と結婚した。Serat Kanda によると、この華人の姫とは王の親友の Kyai Bantong という名の華僑商人の娘であった。この婚姻はチャンパ妃の合意の基に行われた。この華人の姫は大変な美貌の持ち主で王に寵愛され、第二夫人になった。それゆえにチャンパ妃の嫉妬を買うことになった。Brawijaya 王はチャンパ妃が多妻を好まないことを知っていた。それ故、Gajah Mada 宰相に命じてこの華人の姫を Gresik 港に連れて行かせた。その意図とは、華人の姫を Arya Dilah に下賜することであった。Gajah Mada 宰相は姫と王から Arya Damar への書状を携えて Gresik に向かった。王は Arya Damar に、出産前までは下賜した姫と肉体関係をもってはならないと命じたのだった。この姫という褒美を Arya Damar は受け取り、その命令を守った。月が満ちてこの姫は男の子

を生んだ。この子は Raden Patah と名付けられた。この華人の姫と間に Arya Damar は Kusen と名付けられた男の子を作った。〈38〉

同時期に、チャンパの王は Makdum Ibrahim に与えられた神の恩恵のイスラムを信仰していた。Makdum Ibrahim はチャンパの人たちをイスラム化したのであった。その謝意と高い評価として Makdum Ibrahim は王の婿として取り上げられ、Dwarawati の妹と結婚した。この婚姻から Makdum Ibrahim Asmara は Raden Rahmat と Raden Santri の二人の息子を得た。王は崩御し末の息子に交代した。このようにして Makdum Ibrahim Asmara は王の妹婿になったのであった。Anom 王には Raden Burerh という名の王子があった。Raden Rahmat はマジャパヒトの Dwarawati 妃を訪問するためにジャワ島に行きたがっていた。王はそれをゆるし、Raden Santri と Raden Burereh に同行するよう命じた。彼ら三人は出発した。マジャパヒトに着いて、彼らはただちに Brawijaya 王に謁見した。彼ら三人は歓待された。一年間マジャパヒトで暮らした。Raden Rahmat は、Ni Gede Manila という名の Tumenggung Wilawatikta の娘と恋に落ちた。Raden Santri と Raden Burereh は Arya Teja の二人の娘と結婚した。Raden Rahmat は後日 Ngampel Denta に引っ越し、Raden Santri と Raden Burereh は Gresik に住んだ。Raden Rahmat はまた名の名を Sunan Ngampel で知られている。

Maulana Wali Lanang は Blambangan への途中 Ngampel Denta に投宿した。Blambangan に到着した時その地域は伝染病が蔓延していた。多数の人々が伝染病にかかっていた。Blambangan の王女も伝染病に罹っていた。Syaikh Maulana Wali Lanang はその王女の病気を治したのであった。謝意としてその王女が Maulana Wali Lanang に下賜された。しかしながら、Maulana は王をイスラムに改宗することに失敗した。これが原因で Maulana は直ちに Blambangan を後にして Malaka に向かった。月が満ちて、王女は男の子を生んだ。王はそれを喜ばなかった。その赤ん坊は Blambangan 川の河口に捨て子にされ、Ki Samboja に拾われマジャパヒトに連れていかれた。〈39〉Ki Samboja はその後 Gresik に移った。Ki samboja は亡くなった。その赤ん坊は Samboja 夫人に育てられ Sunan Ngampel 自身の息子とともにイスラムの読経を習わされた。Sunan Ngampel の息子は santri Bonang という名で Nyi Samboja に拾われた子供は santri Giri という名であった。彼らは後日 Sunam Banang と Sunan Giri になったのであった。

Santri Giri と Santri Bonang はイスラムの「五行」を全うするためにメッカにハジ詣でを行った。その途中でマラッカにとどまった。彼らは一年間 Maulana Wali Lanang についてイスラムについて学習した。その後、彼ら二人はメッカへの旅行を続ける必要がなくジャワに戻されたのだった。彼らは櫛と長衣、kaslule を与えられた。それと一緒に Santri Giri は Setmata 王という名を santri Bonang は Nyakrakusumaadi という名を与えられた。Santri Giri と Bonang は Ngampel Denta に帰ってきたのであった。

マジヤパヒトの Tumenggung Wilatikta の息子は Jaka Sahid という名前であった。趣味は闘鶏と賭博であった。賭博で負けるとひったくりをしていた。ある日 Jaka Sahid が Lasem の北東にある Jati Sekar の森の中の道で一人の人に出会った。彼は Sunan Bonang に出会い、濃紺の服を着て赤いハイビスカスのイヤリングをした人からひったくるように忠告を受けた。三日後に Sunan Bonang は濃紺の服を着て赤いハイビスカスのイヤリングをつけてまたその場所を通った。Jaka Sahid はこの時を待ち構えていた。捕まえようとした時、Sunan Bonang は四人になり、四方向を占めた。直ちに Jaka Sahid はひざまづいて降参とともに礼拝した。Jaka Sahid は反省して Sunan Bonang の杖を守られされた。一年後、Sunan Bonang がそれを見にやってきた。Jaka Sahid はそのまま茂った草の中でそれを支えていた。〈40〉Sunan Bonang の言葉に触れて茂った草は跡形もなく消え失せた。Jaka Sahid はさらに一年間そこに置かれた。彼は同じ場所にそのままいて、その手には杖が握られていた。二年間の修行ののち Jaka Sahid はそこを離れて知識を勉強させられた。Jaka Sahid は一年間 Sunan Bonang のイスラム塾生になり、その後 Cirebon に向かい、Kalijaga の森に居を構えた。彼は川のほとりで修行を行った。眠くなったときは目に水を掛けて水と共に流し去った。路銀は火縄であった。その修行を熱心にやった後で、Jaka Sahid は名前を Sunan Kalijaga に変えた。Sunan は Sunan Gunung Jati の桶に変身して、仕事は部屋を占めることであった。とある晩 Sunan Gunung Jati が部屋を黄金で満たした。未明に Sunan Kalijaga が小部屋を開けてみると黄金でいっぱいになっているのを見て、創造された黄金は小部屋の基礎となった。Sunan Gunung Jati がその「桶」が Sunan Kalijaga であると確信した後、かれは Sunan Kalijaga の妹と結婚し Sunan Gunung Jati の義理の兄弟になったのであった。

Arya Damar は Raden Patah が Palembang の王になり Raden Kusen に宰相になっ

てほしいと希望していた。Raden Patah と Raden Kusen はいまだ歳若く政治能力もなかったもので、かれらにはこの父親の希望が重荷になっていた。かれは多くの人たちからのあざけりを望まず、国民を悲しみの淵に連れていくことも心にかけていた。この話を聞いて Arya Damar は黙ってしまった。彼が怒る気配があった。その晩、Raden Patah は誰にも告げずに寝室を抜け出し、水路をとおって王宮の外に出て逃亡した。彼は東に向かって密林に入った。Raden Patah が逃亡したことがわかり都の中は大騒ぎであった。この騒動の最中、Raden Kusen は兄を追って逃げ出し森に入った。彼らは湖畔で遭遇した。かれらはジャワ島に向かう旅を続けることを決意し、Palembang にはもう戻りたくなかったが、乗る舟もなかった。〈41〉その時、この二人から追いはぎをしようと企んでいた Supala と Supali という盗賊に出会ったが、この盗賊は降参した。この二人の盗賊は風に吹かれるようにして各々の家に帰っていった。

Raden Patah と Raden Kusen は乗ろうとする船を探しに海岸に向かったが無駄に終わった。それから彼ら二人は海の上にそびえる Rasamuka 山に登り、修行をしながら商船が来る時を待った。ジャワに向けての出港準備ができた商人がいた。ふと見ると Rasamuka 山のふもとで修行している二人がおり、彼らにすぐに近づいた。質疑尾応答が彼らの間であった。最終的に二人の Raden はジャワ島に向かう商船に乗り組んだ。スラバヤの港につくと、Raden Patah と Raden Kusen は上陸した。Ngampel Denta のモスクの尖塔が見え、直ちにそちらに近づいたのであった。彼ら二人は Jagawasita に連れられて Ngampel の町に入り Sunan Ngampel に対面した。Raden Patah と Raden Kusen は Sunan Ngampel の塾生になった。Ngampel にしばらく滞在した後、Raden Kusen は Bramawijaya 王に仕えるためマジャパヒトへの旅行を続けるために兄をそこに残した。異教徒の王に仕えるのを快しとしない Raden Patah はその弟の誘いを断ったからだだった。Raden Kusen は一人で出発することになった。Raden Patah はそのまま Ngampel に滞在し Sunan Ngampel の娘婿として取り上げられ、Sunan Ngampel の孫娘の長女である Nyai Gede Maloka と結婚した。その後 Raden Patah は Sunan Ngampel の指示で Bintara の森あるいは Gelagah Wangi に住んだのだった。Bintara の森は開墾された。そこで彼はモスクを建てイスラム学者になった。

Raden Kusen はマジャパヒトに向かった。かれはマジャパヒトの都で宮廷使用人として雇い入れられた。かれがどのくらいの期間使用人でいたかは語られていない。最

後には Terung の adipati(太守)になった。

Brawijaya 王は Bintara の森に大変厳しい修行をしている新しい住人がいると聞いた。その人は誰であるかと王は尋ねた。〈42〉Terung 太守の答えはその師は自分の兄であるとのことであった。Terung 太守は王に会わせるために Raden Patah 呼ぶようにと命じられた。Raden Patah は Raden Kusen に連れられて王に拝謁した。Spripanganti まで来たときに Raden Patah は王と出会った。Raden Patah の立ち居振舞いと顔つきを見て、王は深く惹き付けられた。侍女に鏡を持ってくるように命じた。その侍女はすぐに取りに行った。鏡に王は自分の顔を映した。顔つきが Raden Patah にそっくりなのに驚いた。Raden Patah は王の息子であることを告白し Bintara の太守に任命されたのだった。このようにして Kusen は Terung の太守に、Patah は Bintara の太守になった。Bintara の太守は辞退を申し出た。王は Bintara の太守にマジャパヒトで毎年王に謁見するように言いつけた。王は祝福し Bintara の森が後日豊かな国になり Bintara の太守が最初のイスラム王になるように祈ったのだった。

王は病の床についた。王からのすべての質問に答えるために占い師たちが集まった。彼らが占ったところ、三代目以降は王権がマジャパヒトから Mataram に移るという託宣を得た。将来にマジャパヒトを支配するのは Medang 王国の末裔である。Wandan の女と肉体関係を持つと今の病気が治癒するという夢を王が見た。王は眠りから起きた。夢のお告げに従った。王は Dwarawati 姫の侍女の Wandan の女と肉体関係を持った。九か月後に Wandan の女は男の子を出産した。その女は遠ざけられ、八歳になった時に殺すようにとの命令と共に Masahar の農園主に預けられた。Masahar の農園主はこれを受け入れた。その子は農園に連れて行かれ、何年間にもわたり子供を欲しがっていた Masahar の妻にしっかりと育てられた。その子は Bondan Kejawan と名付けられた。八歳に達したあと、Masahar の農園主は王の非難を受けることを怖がり、王との約束を果たそうとした。〈43〉刺し殺すためにクリスを抜いた途端に Masahar の妻は失神してしまった。妻への愛情のあまり、Bondan Kejawan は殺されずに済んだのだった。Masahar の農園主はやむを得ず王に嘘をついたのだった。Bondan Kejawan の存在は秘密にされた。

Masahar の農園主は収穫の都度ごとにマジャパヒト王に農産物の捧げものをしていった。米はたくさん取れたのでたくさんの人たちに担がれて運ばれた。とある時、もみ

を担いで運ぶ人たちを送るために Masahar の農園主がマジヤパヒトに向かう時に、Bondan Kejawan は養父の知識の外に同行したいと強く願っていた。王へのモミの献上が終わり、係の官吏がそれを受け取った。その時、Bondan Kejawan は Siti Inggil に入り込み、チャンパ王からの贈り物であるガメラン楽器の Sekar Dalima が保管されている部屋に向かった。Bondan Kejawan は Sekar Dalima を演奏したが、その楽器の Sekar Delima は家宝の楽器であり、やたらな人には演奏させなかったものであった。特定の機会にだけ演奏されたのであった。これだけの理由で、その楽器の音は多数の人たちを驚かせたのであった。誰がこの Sekar Dalim を演奏しているのかを調べるべく王は直ちに命令を下した。Bondan Kejawan が捕まって名前と住所を尋ねられた時に、自分は Mahasar の農園主の子供であると自白した。Bondan Kejawan は王に謁見させられた。心中、王は Masahar に預けて戻ってきた子供を見て喜んだ。王は Bondan Kejawan が Mahasar の妻の子であることを信じなかった。いずれにせよ、彼こそが預けて殺すようにしたわが子であった。

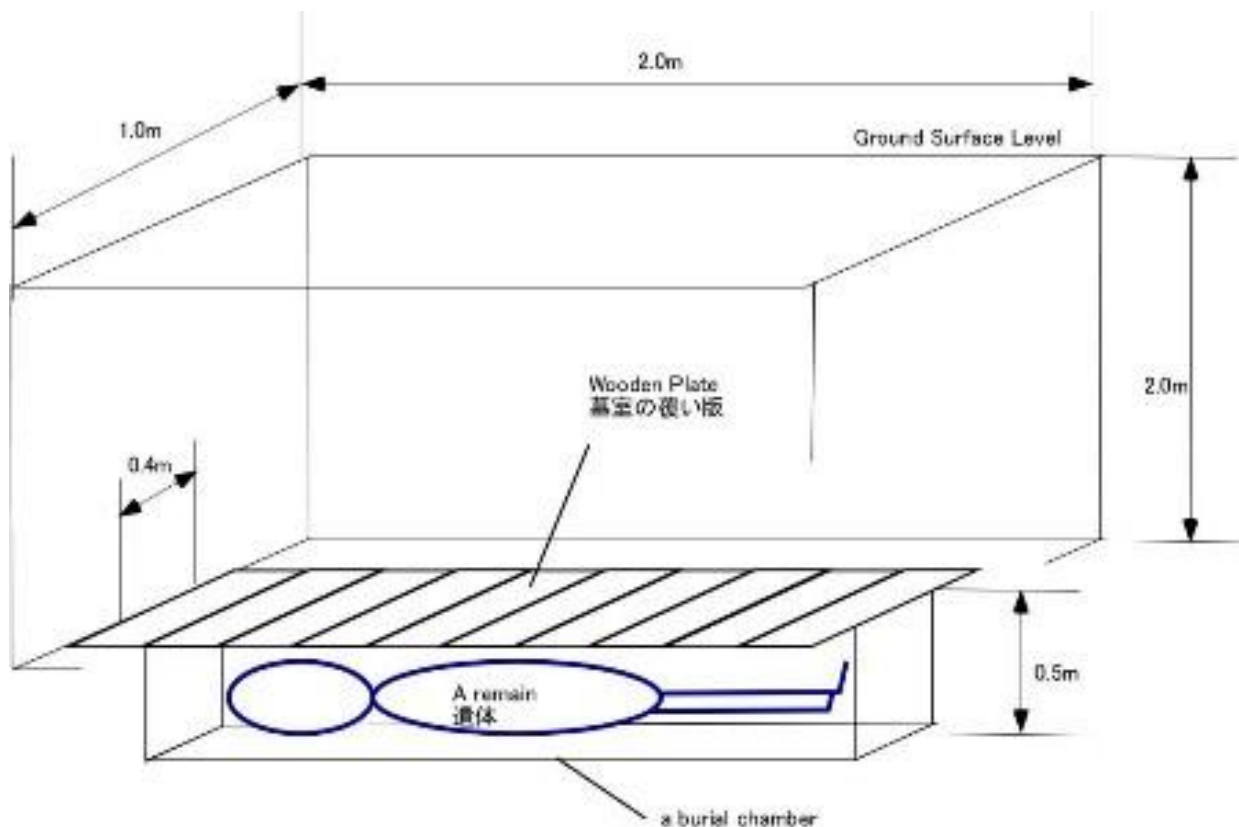
それゆえに王は怒らなかつたどころか Mihasa Nuar と Melela と名付けられた二ふりのクリスを褒美に与えたとともに Mahasar には Bondan Kejawan を Ageng Tarub に預けるように命じた。この命令は遵守された。Masahar と Bondan Kejawan は直ちに Tarub に向かった。Tarub に着くと Bondan Kejawan は Ageng Tarub に預けられた。〈44〉 Bondan Kejawan は厚遇され後日 Ageng の婿として取り上げられ、天女 Nawang Wulan の子孫である孫娘の Nawang Sih 姫と結婚した。Nawang Sih は Ki Gede Kudus の直系の子孫であった。Ki Gede の息子は父親からの結婚の命令に反対したため怒りに触れた。Jaka は家から抜け出し森に入り Kembang Lampir 集落の近くの Kendeng 山で修行に入った。Jaka は池で水浴をしていた Ageng Kembang Lampir の娘の美しさに引き込まれてしまった。Jaka は Endang Kembang Lampir に悪行を働いてしまった。Endang は妊娠してしまい親に恥をかかせたのち家を出て森に入ってしまった。森の中で男の子を産んだが、母親は流産で死んだ。その嬰兒は吹矢の獵師の Selandaka に見つけられ、Tarub の修行村に連れてこられた。Selandaka はこの嬰兒を Giyanti の木の根元に置き去りにし、Tarub の Randa 夫人(寡婦)に見つけられた。この嬰兒が成人すると Jaka Tarub という名で知られるようになった。Jaka Tarub は森での狩獵を好んだ。養母は聖なる山には上らないように彼に言いつけていたのではあるが。母の

その言いつけを忘れて Jaka Tarub は吹矢でとる鳥を追いかけて山に登っていった。聖なる山の頂上には天女が水浴をする池があった。Jaka Tarub はたくさんの天女たちが楽しげに泳いでいるのを見た。彼は泳いでいる天女の衣を盗もうとした。彼は一着の衣を奪い、家に持って帰り米倉の下にしまった。その代わりとして Jaka Tarub は天女が水浴をしている池に上着と腰巻を持って行った。池のふちまで来たときに Jaka は思わず咳こんでしまった。水浴をしていた天女たちは驚いて池から出て衣をとって天にとんで帰ってしまった。自分の衣がなくなっていたので外に出られなくなり、水の中に残っていたのは天女 Nawang Wulan 一人だけであった。問いかけと答えの後、Jaka Tarub は、彼女は衣服を与えてくれた人の妻になるという約束に負けた Nawang Wulan に代わりの衣服を与えたのだった。〈45〉Jaka Tarub と天女 Nawang Wulan との間には Endang Nawang Sih が生まれた。Nawang Wulan は米倉の下にしまってあった羽衣を見つけて天に帰ってしまった。Jaka Tarub と Nawang Sih は Tarub 集落に残されてしまったのであった。その後、Nawang Sih は Bonda Kejawan あるいは Lembu Peteng と結婚した。かれらが後日 Mataram の Pajang 王になる Raden Jaka Tingkir を残すことになるのである。

Sunan Giri から知識を学んだたくさんのマジヤパヒトの人たちはイスラムを信ずるようになり Sunan Giri の同調者になった。Brawijaya 王は、後日 Sunan Giri が反乱を起こすのではないかと恐れた。それ故、Sunan Giri を厳しく警戒するよう命じた。Gajah Mada は Sunan Giri が隠れている場所を攻撃するためにマジヤパヒトの軍を準備するように命を受けた。が、その攻撃は失敗に終わった。Sunan Gir と同調者はマジヤパヒト軍と対決しながら戦いを続ける決心をしていたからである。マジヤパヒト軍との戦いの中で、Sunan Giri の同調者はその多くが重傷を負い、生きていたものは散り散りバラバラに逃げた。彼らは Sunan Giri に謁見し事実を報告した。この報告を聞いて、Sunan Giri は悲しんだ。彼は直ちに書くのをやめてペンを置き神に祈った。かれは武器としてペンだけを持ち外に出てマジヤパヒト軍と対面した。彼は誰にも見えない幽霊のようになって暴れ、兵士が将校を刺し殺すように仕向けた。刺されたうち多くの将校たちは戦場で殺されたのだった。マジヤパヒトの兵士たちはどうしてよいかわからなくなり、戦場を後にしてマジヤパヒトの都に向かったのであった。彼らは腕がなくて動くクリスを見るだけで恐れたのであった。Sunan Giri の武器は Kalam Munyeng (回るペ

ン)で、投げられるとクリスの形になり勝手に動くのであった。これこそがマジヤパヒトの人たちを恐れさせたものだった。マジヤパヒト軍は追い返された。この戦争後 Sunan Giri は病の床につき亡くなった。〈46〉 交替者は Sunan Parapen という名の彼の孫であった。

Brawijaya 王は再度 Giri を攻める命令を下した。Suran Parepen の抵抗は突破された。復讐にはやる心に迫われ、Sunan Giri の墓を暴く命令が下された。墓守は脅されて墓を暴かされた。墓室の覆い板(下図参照)が取り除かれると埋葬室から数千匹の蜂が飛び出してきて空を覆い、マジヤパヒト軍を追い払った。マジヤパヒト軍は都まで退却した。それから Brawijaya 王は Sunan Giri をもう邪魔しないと約束したのだった。



Typical Model of Burial Chamber in Java in Islamic Style

同時期に、Bintara の太守は長いこと王に謁見していなかった。Terung の太守は Bintara の太守を呼び出すために Demak に遣わされた。Demak に着いて、Bintara の太守は何の理由で王に謁見しないのかと尋ねた。その答えとは、イスラム人は異教徒の王に謁見することを禁じられているということであった。Demak は最初のイスラム

国として独立するところであった。Terungの太守はその理想に賛同したが、王に叱責されるのを恐れて、マジャパヒトに対して反旗を翻すときには必ず支援するという約束で Bintara の太守と一緒に王に謁見しようと頼んだ。このような経緯で、Raden Patah はその後 Tuban の太守、Madura の太守、Surapringga の太守、Sunan Giri、その他の Sunan 一族と共に集まった。Demak のひと握りのイスラム教徒が呼び集められた。彼らはマジャパヒトを目指して動き出した。都は包囲された。Bintara の太守は Terung の太守に囲まれて王宮前広場に入り、pagelaran(演劇の舞台?)に進んだ。

Raden Patah に率いられた Demak からのイスラム軍が到着したと Brawijaya 王はきかされた。Bintara の太守はすでに pagelaran まで達していた。この報告を聞いて Brawijaya 王は物見台に上りわが子の到着をみた後、忠誠を誓った部下たち全員を伴って脱出した。その後、Bintara の太守が王宮に入った。空になった王宮を見て泣いた。Bintara の太守は帰還した。Sunan Ngampel の忠告で、異教徒の王の影響をすべてなくすため 40 日間 Sunan Giri がマジャパヒトの王になった。この 40 日間が過ぎた後、王位は Raden Patah へ授けられた。清められた Reden Patah は、Senapati Jimbun Ngabdurrahman Panembahan Palembang Saidin Panata Agama という名を以て Demak のサルタンに就任した。サルタンになった後 Demak のモスクの建設が続いたのであった。

第二節 Serat Kanda¹

マジャパヒト王国の衰亡に関する Serat Kanda の解説は Babad Tanah Jawi の解説とほぼ同じではあるが、比較材料として Serat Kanda の概要をここに述べておく。いくつかの注意を引く点と Babad Tanah Jawi には述べられていない件がある。さらに、重要な歴史的イベントにはかならず符牒(candra sangkala)で年号を伴っている。この符牒で示されている年号は碑文とともにその他のマジャパヒトに関する史料と照合する必要がある。

上述のように、Serat Kanda 中のマジャパヒト諸王の名前は碑文と Babad Tanah

¹ Dr. J, Brandes 著のパララトンに Serat Kanda がある。さらに Serat Kanda は Nic. Engelhardt を元にしてる。

Jawiに盛り込まれているものとの差異がある。要約するのは、サカ歴1301年から1400年までの年号を与えられている Angkawijaya 王の治世下におけるマジャパヒト王国の運命である。Angkawijaya は、Serat Kanda によると Kencana Wungu 女王の夫である Damarwulan である Mertawijaya 王の後任である。その統治は1270年に始まった。上記のこれらの名前は碑文とパララトンには見当たらない。Mertawijaya 王と Angkawijaya 王の治世の間で説明されている歴史的イベントは、詳細研究が必要な重要な資料ではないかと思われる。

Angkawijaya は新しく Ni Raseksi (Babad Tanah Jawi によると Ni Endang Sasmitapura)という妾をもった。Ni Raseksi は、生肉を食べたあと巨人女に戻ってしまったためにも王宮から追放された。皇后は王にチャンパの姫をめとるように忠告を与えた。この忠告は守られ、王は Dwarawati という名のチャンパ人の女性と結婚したのであった。その後、Angkawijaya は Kyai Bantong という名の華商の女性と結婚した。その返礼として、Kyai Bantong は移住したがっている華人に役立てるように Kedu の土地を与えられたのであった。

Mustakim 王の子 Sayid Rahmat がメッカから戻ってきた。彼の母から Dwarawati が既にジャワに住んでいると聞いた。この母親の死後、Sayid Rahmat はジャワにいる Dwarawati 王女を訪問したく思っていた。彼はその当時チャンパを統治していた王である叔父の息子のいとこ Janalkabir とジャワに向けて出発し、Jebara に上陸した。Sayid Rahmat は当時 Tajuk と呼ばれていた Kudus に向けて出発した。Kudus でチャンパから連れてきた Sayid Seh という子供が病気になった。Kudus に滞在している間、Sayid Rahmat は Puraga の子孫である Nyai Laro Ngunjun と結婚した。Sayid Seh が快復した後、かれらはマジャパヒトに向け旅を続けた。妊娠していた Nyai Laro Ngunjun はその地に残され、やがて生まれてくる子が男の子なら Raden Undung と名付けるように命じられた。マジャパヒトに着くと Raden Sayid は Angkawijaya 王に歓待され、Ngampel に住むことを許された。同時に、Sayid Rahmat は Tuban の太守 Wilatikta の娘で Arya Teja の孫にあたる女性と結婚した。この出来事はサカ歴1308年のことであった。

Raseksi は Jaka Dilah を Tayu で産んだ。大人になって Jaka Dilah は父親が誰であるかを尋ねた。叔父と母はその出自を秘密にしていた。Jaka Dilah は激怒しこの二人

を殴りつけて初めて Jaka Dilah の父親が誰であることを教えられたのだった。〈49〉その後 Jaka Dilah はマジヤパヒトに向かい Gajah Mada 宰相に会い、続いて王に謁見した。Jaka Dilah が密林から野獣を王宮前広場に追い出すことができたなら、Brawijaya 王は自分の子供であることを認知し、Palembang の地を与えると約束した。Jaka Dilah は王の示した条件を満たしたのだった。それ故、彼は本当に Palembang の地を褒美に与えられたのだった。彼は名前を Arya Damar に変えた。同時に Dwarawati 妃が多妻を好まなかったために妊娠している華人の妃を授かった。間もなく Dwarawati も妊娠した。その当時 Wandan と英国の軍隊が来襲したが、追い返されてしまった。

Ngampel はイスラムの中心地となりたくさんのイスラム法学者たちが来訪した。Raden Rahmat の叔父の Sayid Iskak は Garage への途中で、Syarif Ibrahim あるいは Maulana Mahribi²は Denta への途中で Ngampel を来訪した。Pamalang 出身の Sayid Ali (Sunan Gesang) と Tuban 出身の Sayid Akbar も Ngampel を来訪したのであった。Blambangan をイスラム化すべく努力していた Sayid Iskak はこれに失敗し、アラブに帰国した。Blambangan での滞在中に彼は伝染病を防ぐことに成功し、それゆえに彼は Dadali Petak の子孫である娘を褒美として得た。この娘は妊娠中に置き去りにされた。月が満ちてこの娘は男の子を生んだ。Blambangan 王はこの赤ん坊をただちに川に流した。この赤ん坊は漁師に見つけられ Gresik の Nyai Gede Pinatih に預けられた。大きくなって彼は Sunan Ngampel の下でイスラムの読経を習ったのだった。Sunan Ngampel には Raden Bonang、Raden Derajat、Raden Sayid、Rara Meloka という子供たちがいた。Raden Iskak は Rara Meloka と結婚して、Sunan Ngampel の忠告に従い Giri に居を構えた。〈50〉Raden Bonang は Lasem に Raden Derajat は Tuban に行かされた。

Palembang に居を構えた Arya Damar はマジヤパヒトから持ち込まれた胎児が生まれるのを待っていた。華人の妃は Raden Patah という名の男の子を生んだ。Arya Damar とこの妃との結婚から Raden Kusen という息子を得た。Raden Patah と Raden Kusen はジャワ島に向かい、金を払わずに商船に乗った。Raden Patah は Ngampel

² Maulana Malik Ibrahim が 1419 年に Gresik でなくなったとき Sunan Ngampel はまだジャワ島にいなかった。Sunan Ngampel がジャワ島に来たのは 1446 年であった。Maulana Malik Ibrahim は、1412 年当時イスラム Maliki 派を奉じる Natal での外国商人であった。彼の仕事は Maliki 派の教えを広めることであったがシーア派の人々に妨害されたため、彼は Gresik に移り住んだのであった。

で、一方 Kusen はマジャパヒトに向かった。その後 Brawijaya 王は Kusen を Terung の太守に取り上げたのだった。

Brawijaya 王はチャンパ妃から生まれた Retna Ayu のための婿選び(swayamwara)を開始した。Blambangan 王の Dedali Petak と Bali の太守 Menak Badong を打ち負かした者は誰でも婿として取り上げ Retna Ayu と結婚するとともに Pengging 地区を与えられることになった。Jaka Sengara は Dedali Petak³と Menak Badong の首をはねることができ、Retna Ayu と結婚して Pengging の太守になり、Dayaningrat と名乗った。チャンパ妃はサカ歴 1320 年に崩御し Citrawulan に葬られた。王の希望とは逆に、王妃はイスラム方式で葬られた。Retna Ayu の兄弟で Lembu Peteng という名の者が Madura の太守になり、Raden Gugur が Madiun の太守になり、バリの姫から生まれた Raden Kelungkung と Raden Katong は Brawijaya 王の弟である Batara Nata の後任として各々 Kelungkung と Panaraga の太守になった。

Sunan Ngampel は Raden Patah に Bintara 別名 Gelagah Wangi に居を構えるように忠告した。Raden Patah はこの忠告に従った。Raden Patah は Demak の町を建設した。Brawijaya 王は Demak が反乱を起こしそうだという噂を耳にした。本当の情報を得るために、Terung 太守 Raden Kusen が Demak に遣わされた。Raden Patah は王に謁見するために連れて行かれた。マジャパヒトに着くと、Raden Patah は王に平伏した。おそらく怒っていたのだろうが、王は Raden Patah が公式に Demak に居住する許可を与え、Demak の名を Bintara に変更するように下知した。〈51〉Demak の町は Raden Patah によってサカ歴 1326 年に建設された。その後 Raden patah は Demak モスクを作り、Sunan Giri の娘の Retna Mulia と結婚した。

既に悪党であった tumenggung Wilatikta の息子の Raden Said をイスラム化しようと Sunan Bonang はマジャパヒトに向かった。Senan Bonang は Tambak Baja で行く手を Raden Sadi に阻まれた。Sunan Bonang は妖術を使ったため Raden Said は降参した。彼は Sunan Bonang の杖を守るように命じられた。Saloka Kertapati と Kertabangsa は森の中で修行している Raden Said を見てくるようにいつかつた。Raden Sadi は実際に老師の命令を守り続け、杖を守っていた。草はその周りに高く伸びていた。Raden Said は Sunan Bonang に逢うために連れて来られた。数年後に彼は Sunan Bonang の

³ (訳)原文では putih